

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒100-0011
 住所 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
 氏名 JFEスチール株式会社
 代表取締役社長 林田 英治
 (代理人) 常務執行役員 地区所長 弟子丸 慎一
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEスチール株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	22	鉄鋼業
主たる事業 の内容	高炉による製鉄業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	本数値情報は経営上の秘匿情報であり、 記載・開示できません。	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	365,656	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	エネルギー部エネルギー技術室
		所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号
		電話番号	044-322-1601
		FAX番号	044-322-1539
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/globalwarming.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 9,379,567 t-CO ₂ (調) *****	(実) 8,748,598 t-CO ₂ (調) *****	8,314,364 t-CO ₂ *****	8,174,286 t-CO ₂ *****	(実) 10,100,760 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) 6.7 % (調) *****	11.4 % *****	12.9 % *****	(実) -7.7 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	粗鋼量		単位	t-CO ₂ /t-s	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	2.051	1.926	2.049	2.082	1.906
削減率		6.1 %	0.1 %	-1.5 %	7.1 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	平成22年度に計画していました、 温室効果ガス排出削減の為の具体的措置を実施して、 着実な原単位削減を図っております。
第2年度	平成23年度は、経済情勢の激変によって生産量が大きく変動、 温室効果ガス排出量も変化いたしました。その中でも当社は 「3つのエコ」（エコプロセス・エコプロダクト・エコソリューション）を推進して 着実な成果を生み出す確固たる技術を開発して、その普及に邁進しております。
第3年度	平成24年度は、生産量変動により、温室効果ガス排出量は減少、排出量目標は達成いたしました。しかし、スクラップ価格、電力価格、都市ガス価格等が高騰、コスト上昇を抑制する 操業に傾斜した事で、温室効果ガス排出原単位が増加、原単位目標は未達となりました。その 中でも当社は低炭素社会と経済発展の両立に不可欠な高機能鋼材の開発・供給を通して CO ₂ の削減に努めております。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	JFEスチールは日本鉄鋼連盟の自主行動計画に基づき、省エネルギー活動を実施してきており、「2008年度～2012年度平均でエネルギー消費量を1990年度比10%削減」の目標達成に向け、現在も継続中です。 2010年度は <ul style="list-style-type: none"> ・高効率モーター導入による電力使用量削減 ・高効率空気圧縮機更新による電力使用量削減 ・原料水分低減化による高炉コークス使用量削減 ・発電所取水口改造による発電効率改善など、実施
	第1年度	平成22年度に計画していました、 <ul style="list-style-type: none"> ・高効率モーター導入による電力使用量削減 ・高効率空気圧縮機更新による電力使用量削減 ・発電所取水口改造による発電効率改善 を実施、着実な原単位削減を図っております。
	第2年度	平成23年度に計画していました、 <ul style="list-style-type: none"> ・製鉄地区冠水対策による石炭使用量削減 ・排鉱部集塵機老朽更新による電力使用量削減 を実施、着実な原単位削減を図っております。
	第3年度	平成24年度に計画していました、 <ul style="list-style-type: none"> ・塊鉱石篩強化による石炭使用量削減 ・全量APR（微粉廃プラ製造）による石炭使用量削減 を実施、着実な原単位削減を図り、計画書に掲げた計画項目は全て完了しました。 さらに、排熱を利用した熱電発電技術実証試験を実施し、有効性を確認する等、新技術開発を進めております
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	(1) 低CO ₂ 川崎パイロットブランドの選定 2009年度「Super-SINTER」(低CO ₂ 焼結製造プロセス技術)選定 西日本製鉄所(倉敷地区)にて導入中 効果:原油換算4,300kLの省エネ効果 東日本製鉄所(千葉地区)、西日本製鉄所(福山地区) 導入決定
第1年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド2009年度「Super-SINTER」 (低CO ₂ 焼結製造プロセス技術) 西日本製鉄所(倉敷地区)にて導入中 平成22年度実績 1基/全3基 完了
第2年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド2009年度「Super-SINTER」 (低CO ₂ 焼結製造プロセス技術) 西日本製鉄所(倉敷地区)にて導入中 平成23年度実績 3基/全3基 完了
第3年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド2009年度「Super-SINTER」 (低CO ₂ 焼結製造プロセス技術) 京浜以外の他地区へ導入完了

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	(1) 優れた鉄鋼製品によるCO ₂ 削減への貢献 (2) 革新的技術開発によるCO ₂ 削減への貢献 (3) リサイクル技術による循環型社会への更新 (4) 国家プロジェクトへの参画
第1年度	(1) 優れた鉄鋼製品によるCO ₂ 削減への貢献 440MPa級高張力冷延鋼板が自動車ドアパネルに初採用 (2) 革新的技術開発によるCO ₂ 削減への貢献 当社が開発したマリブロックがインドネシア珊瑚礁再生実証試験に採用 (4) 国家プロジェクトへの参画 フェロコークスパイロットプラントが完成、試験操業開始
第2年度	(1) 優れた鉄鋼製品によるCO ₂ 削減への貢献 440MPa級高張力GA鋼板が自動車フードパネルに初採用 (2) 革新的技術開発によるCO ₂ 削減への貢献 当社が開発したマリブロックを横浜市ブルーカーボン実証試験事業に提供 (3) 国家プロジェクトへの参画 フェロコークスパイロットプラントが完成し試験操業開始
第3年度	(1) 優れた鉄鋼製品によるCO ₂ 削減への貢献 高伸び型780MPa級高張力GA鋼板が自動車車体骨格部品に初採用 (2) 革新的技術開発によるCO ₂ 削減への貢献 排熱利用熱電発電技術の実証試験を実施、製鉄所内での有効利用を確認 (3) 国家プロジェクトへの参画 フェロコークスパイロットプラントで長期製造試験から、安定製造を確認

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	8,216,399	t-CO ₂
(調)	*****	

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所（京浜地区）	川崎市川崎区扇島1番地1号	2211	高炉による製鉄業	8,216,399 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	0
300～400k1 未満	0
200～300k1 未満	0
100～200k1 未満	0
100k1 未満	0

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所（京浜地区）	川崎市川崎区扇島1番地1号	2211	高炉による製鉄業	8,216,399 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	0
------	---